

短形ごぼうの安定生産技術の確立と作期拡大 (農林センター)

低温期の春先（4月）播種の発芽安定技術を開発しました。また、土壤硬度が根長に及ぼす影響を明らかにしました。

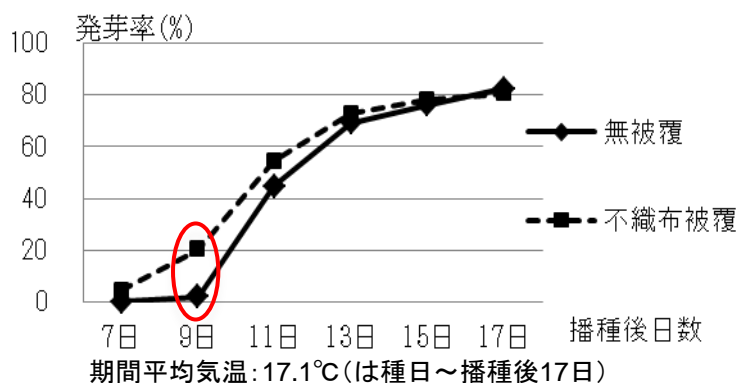


図1 被覆資材の有無と発芽率の推移

発芽勢を高め発芽を安定させるには不織布のべたがけが有効であり、約2週間で実用的発芽率80%に達する



図2 長期被覆によるひび割れ

1ヶ月を過ぎる長期の被覆は根部のひび割れを助長するので、80%以上発芽した頃に被覆を除去する

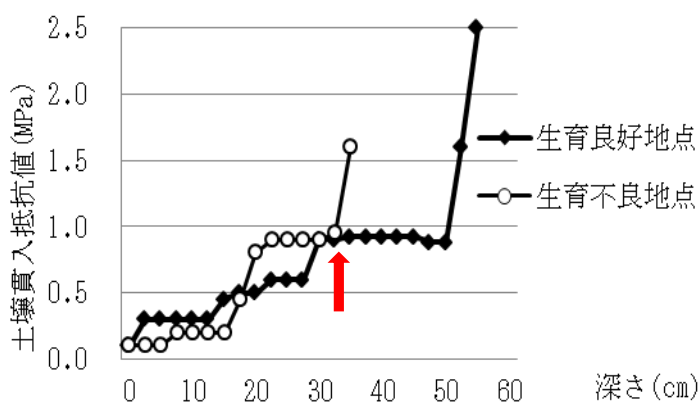


図3 生育良否と深さ別土壤硬度

根の伸長は土壤硬度との関係が深く、40cm以上の深耕が望ましい



図4 生育良好地点と不良地点のごぼう

写真左端: 良好地点のごぼう
右端: 不良地点のごぼう

- 播種後の不織布べたがけ被覆で、発芽勢が高まるとともに発芽が安定
- 長期間の被覆は根部のひび割れが増加
- 排水不良の他、土壤硬度は根の伸長への影響が大

- 播種後発芽揃い頃までの不織布べたがけ被覆で発芽が安定します。
- 根長を確保するには深耕による土壤硬度の改善が必要です。